

大阪府 公立幼保連携型認定こども園 初任者研修

乳児保育で大切にしたいこと

－ 発達理解、あそびと環境、連携

大阪大谷大学

長瀬 美子

1. 0～2歳児の発達特性

身体的発達

社会的発達

精神的発達

1) あらゆる発達の基礎としての乳児期

いろいろな「ひと・もの・こと」との出会い → 豊かな経験

ひととの出会い：基本的信頼感、子ども同士の関係へ

ものとの出会い：興味、好奇心、感覚・感触・感性へ

こととの出会い：主体性、意欲へ

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の土台

* 喜びをもって獲得される

→ 次の意欲、「自分で」という気持ちへ

2) 「人間としての基礎」がつけられる0歳児

①基本的な獲得を着実に

- a. 運動機能の獲得（座位、ハイハイ、つかまり立ちから歩行へ）
- b. ことばの獲得
- c. 摂食（おいしさ、咀嚼、嚥下）
- d. 基本的信頼感の獲得

保護者とともに
子どもの人生のスタートに
立ち会う

②信頼できるおとなとの関係を基盤に

- ・まわりのものに興味をもつ → 探索、認識の発達
- ・他児に関心をもつ → 関係の発達

3) 「個人としての基礎」がつくられる1歳児

①自我がめばえる、「つもり」が生まれる

- ・「今」と「一つ先」がつながる
- ・ことばではまだ十分に表わせない
- ・おとなの働きかけに対して「イヤ！」と表現する姿も生まれる

②それぞれに思いが生まれ、衝突が多くなる



4) 経験を土台に、幼児期へと向かう2歳児

①運動機能が高まる（全身運動、手指操作）
→ 生活、あそびへの充実、広がり

②ことばを通して世界、活動、関係が広がっていく
興味をもって尋ねる、ことばでかかわりをもつ

興味や認識が
発達した証

③「やってみたいこと」と「できること」の矛盾が大きくなる
→ 自信のない姿、消極的な姿が見える場合も

2. 乳児期の生活とあそび

「思い」をもって生活する

- ・ 意欲
- ・ 見通し（わかること）

乳児なりに

わかってやってみようとする
（くりかえしの中で）

- ・ 子どもの思いにそった生活の流れ
- ・ 子どもが主体的に向かいやすい環境

1歳児 環境変更の例



0歳児のあそびと環境



保育者の見守り
の中で



身体を動かして
あそぶ



1歳児のあそびと環境

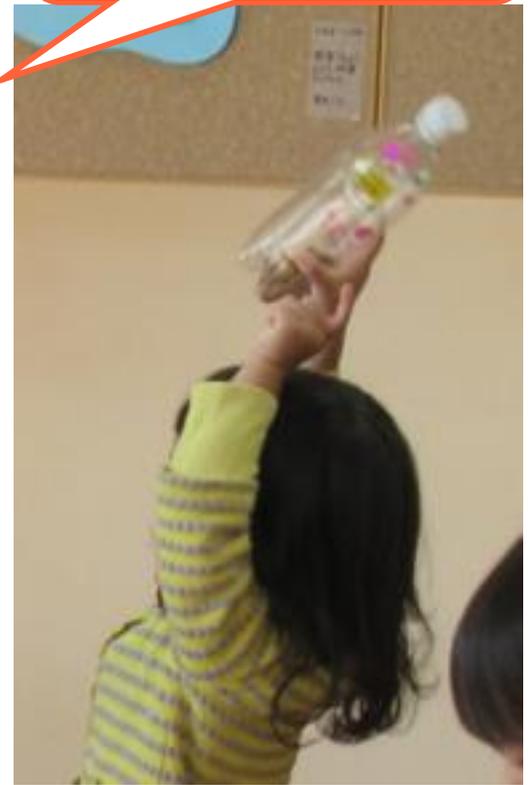


やきいもごっこ 🍠



足形とシールで
こいのぼり

どんぐりの
マラカス



2歳児のあそびと環境

お弁当をもってピクニックごっこ



ごっこの世界を楽しむ
2歳児「おすもうごっこ」

『どっせい！ねこまたずもう』
石黒亜矢子、ポプラ社



みんなで絵本の
世界を楽しむ



おすもうさんになっ
て稽古



強い相手にもみんな
で向かっていく

3. 乳児保育における人的環境 — 保育者の役割・かかわり

1) 基本的信頼感の形成

子どものサインに適切に応える（不快を快に）ことから
= 信頼できる他者の存在を知る
自分が応えてもらえる価値のある存在であることを知る
(自己肯定感)



他児への関心が生まれる
(適切なかかわり方は時間をかけて獲得)

保育者とのかかわりを通して
「安心」「心地よさ」「楽しさ」
を実感する

2) 子どもの思いにそった援助

思いが出せるのは、
大切にしてくれる保育者の
存在があるから

① 思いに気づき、読み取ること

乳児：思いや意思はあっても、表明する手段が未発達
= 気づき、読み取ってくれる他者の存在が不可欠

② 思いをかなえるための援助 自分でできる喜びを育てる

③ 思いを受けとめながら、次の行動へと促す

子どもの思い



保育者の願い

対立的にとらえずに

3) 保育者が楽しんであそぶ姿を通して

①楽しさとの出会いをつくる

あそび方を知らせる

保育者が楽しんでいる姿を見せながら

出会いをつくる

子ども

環境

②楽しさへの共感

保育者が近くで共感できる
物的環境であること

保育者が楽しんでいる姿こそ、
最も大切な導入

③子どもと子どもをつなぐ

いっしょにいる／いっしょにする楽しさへ

4. 乳児保育と連携

乳児保育

= 特性から、多様なおとな同士の
連携が不可欠

1) 職員間の連携

① 複数担任間の連携

- ・ 積み重ねが必要なこと

= できるだけ特定の保育士が継続的にかかわる体制

- ・ 「リーダー」「サブ」などの役割分担、共通理解

② 保育士同士の連携 担任保育士の意図やとりくみを理解して

③ 他の専門職との連携

職種には「大切にしていること」「譲れないこと」がある
ちがうからこそ、出し合って、聞き合って

④ 関係機関との連携

2) 家庭との連携、信頼関係の形成

①子どもの24時間をいっしょに考える
生活リズムの確立が重要な時期だからこそ
様子を伝え合うことから

場がちがえば、子どもの
様子もちがうからこそ

②「大切にしたいこと」を確認し合って

③「意識のズレ」に目を向けて

* 「伝わっていない」と感じた時にこそ、
保育者の気にしていること、大切にしていることを聞きながら

④保護者の自己選択・自己決定を支援する